

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福法人 筑陽会 放課後等デイサービス はるるん		
○保護者評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年3月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38世帯	(回答者数) 33世帯
○従業者評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年3月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【適切な支援の提供】 殆どのお子さんに専門的支援を実施しています。児発官に加え、5年以上の児童指導員1名、5年以上の保育士3名、作業療法士1名が在籍していますので、お子さんの課題に合わせた支援を職員全体で共有し実践しています。	余暇活動では、様々な体験ができるプログラムを提供し、ポジティブな関りを意識することで子供たちが楽しく参加できるようにしています。その結果、苦手な粗大運動の向上につながっています。また、近隣の大学(久留米大学)との交流イベントや社会福祉や保育学科の学生と交流することで、社会性を学ぶ機会につながっています。	専門的支援を実施していますが、小集団ではなく個別になることが殆どで療育の時間に余裕がなくなっています。今後は、小集団で出来ることを増やします。
2	【保護者への提供等】 保護者との交流イベントを実施しています。子ども、保護者、職員の交流だけではなく保護者間の交流や相談ができるようにしています。また、支援計画書は全職員でモニタリングを実施した意見を反映し作成しています。	支援計画の説明を職員が子どもに伝え、可能であればサインをもらっています。また、家庭の都合(祖父母宅や学童送迎等)で直接支援の様子を伝える事ができない保護者には電話やメールにてお伝えしています。	保護者イベントにきょうだい児が参加できるようにします。また保護者との研修会や勉強会を実施します。
3	【関係機関との連携】 定期的な担当者会議だけではなく、必要に応じて電話等で情報の共有をすることで様々な場面(入院、退院など)の対応が出来ます。また、夏祭りや運動会など、近隣の放課後等デイサービスとの交流イベントを定期的実施しています。	保護者が安心して子どもを預けられるように近隣の放課後等デイサービスと協力して利用日の調整を行っています。	学校からの伝達がなく様子が分からない子どもに対しては、保護者から情報の提供を行ってもらう様に働きかけます。また、日々変わる子どもの状態に対応するために担当者会議や学校送迎時に学校の先生との連携を密に行います。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	男児の利用が9割を占めていますが、男性職員がアルバイト学生1名のみで余暇活動や外出先を見直したり、再考する状態になっています。	経験豊富な保育士や児童指導員を採用する際に、男性より女性の方が応募される傾向があります。	本年度8月より男性職員(OT)の採用が内定しています。
2			
3			